特別見学ツアー報告書 （唐招提寺/奈良市）

南大門(昭和35年再建)

正面が金堂（国宝/奈良時代）

金堂

全体の中の白壁のバランスが美しい（ギリシャ建築のエンタフラチュアに比肩される）

右奥は講堂

金堂正面

古代ギリシャ建築を思わせるエンタシスのついた列柱群

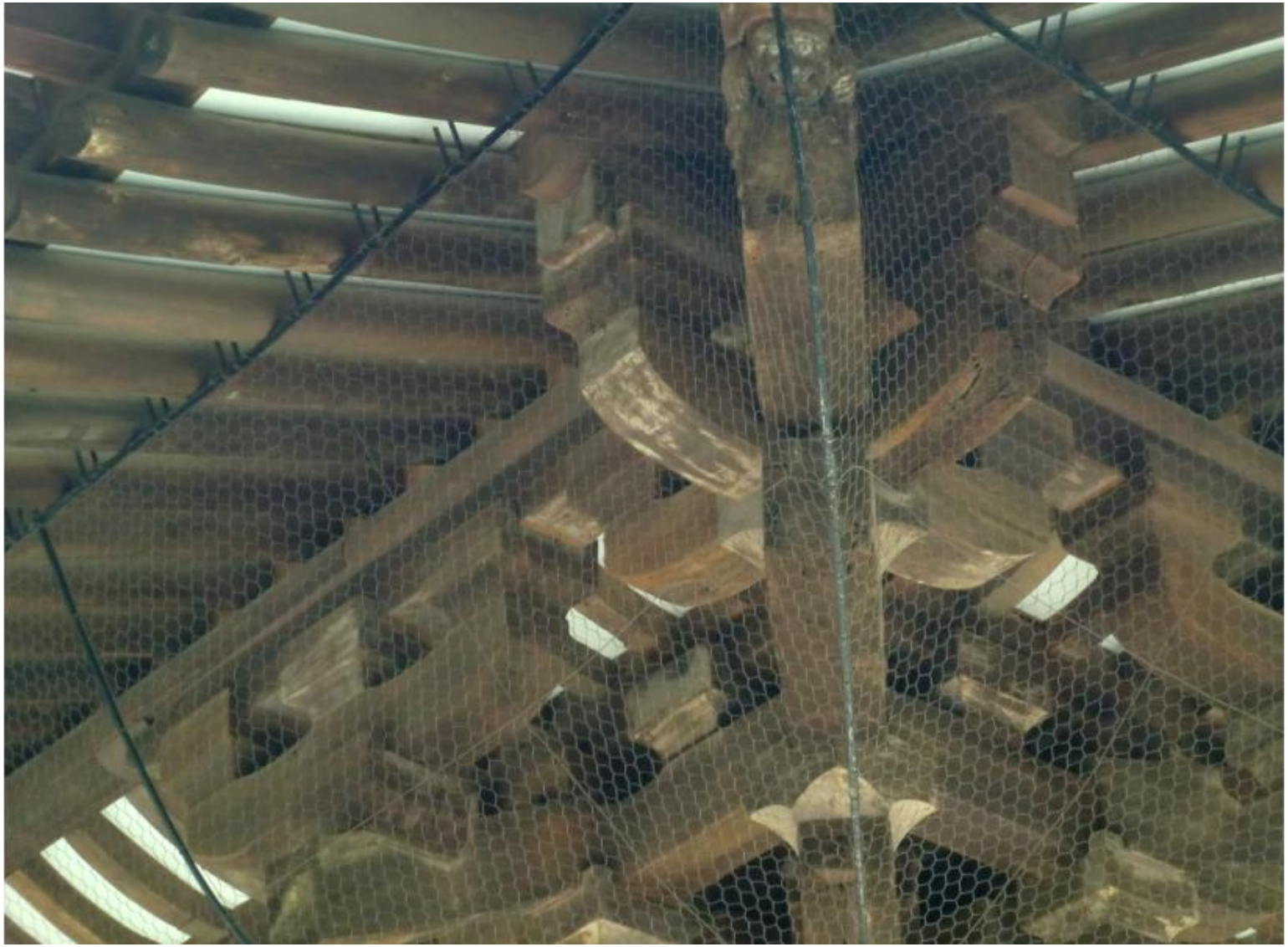
両端の柱間が他の部分より一番狭くなっている

シンプルな白壁の構成

金堂の斗栱(唐招提寺)

「中国の建築様式の移入で、建築技術はめざましい発展を遂げました。その遺構が、天平末に完成した金堂です。三手先、軒天井、軒支輪、二軒垂木など、素晴らしい多様な斗栱となりました」

インターネットより



金堂の鴟尾

会津八一の歌碑

右は金堂、左は講堂、中央は鼓楼

中央は講堂（国宝/奈良時代）

経蔵/校倉・寄棟造・本瓦葺

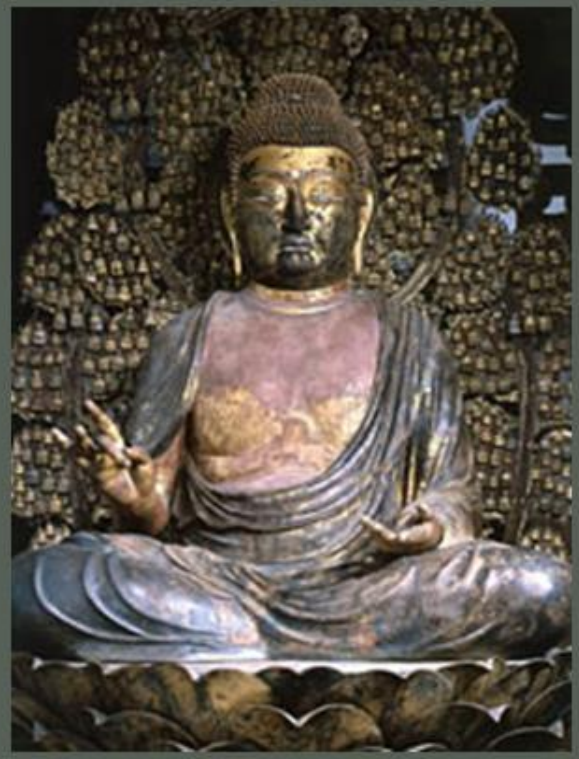
左は宝蔵、右が経蔵（ともに国宝/奈良時代）

鼓楼（国宝/鎌倉時代）、その後ろは礼堂（重文/鎌倉時代）

礼堂、左は鼓楼

参考資料

http://www.eonet.ne.jp/~kotonara/tousyoudaiji.htm



盧舎那仏坐像

（るしゃなぶつざぞう）

国宝　奈良時代（8世紀）

脱活乾漆　漆箔

金堂の本尊で高さは、3メートルを超え、光背の高さは、5.15mにもおよぶ巨像です。奈良時代に盛んに用いられた脱活乾漆造でその造形は雄大さとやわらかさを併せ持ち、唐代の仏像に通じる唐招提寺のご本尊にふさわしい仏像です。

また、背後の光背の化仏の数は、864体ありますが、本来は1000体であったといわれています。